

(別紙様式)

令和6年度学校自己評価システムシート (県立大宮北特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒が明るく、豊かに、たくましく成長し、社会にはばたく力を身に付けられる学校
--------	--

重点目標	1 ICTの効果的な利活用をさらに進めるとともに、一般学級・重複障害学級の教育課程の特徴をより明確にした授業を実践する。 2 施設面も含め、より安心安全で、より豊かな学びが実現できる学習環境を整備する。 3 学校運営評議会（コミュニティスクール）を活用し、より充実した「社会に開かれた教育課程の実現」の視点を取り入れた効果的な教育活動を行う。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	4名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				(2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	1人1台のタブレット端末を活用して、より効果的な授業実践を行っていく必要がある。本校や他校での事例を積極的に取り入れ、効果的な授業の組み立て、新たな教材開発、校務での活用に積極的に取り組む必要がある。 限られた教室数、狭隘な学習環境の中で、一般学級・重複障害学級が、それぞれの教育課程に基づき、いかに効果的な指導を展開できるか。どんな工夫ができるか。	ICTの効果的な利活用の推進と授業および校務の改善	各教職員が「ICTの利活用」を加味した実践に取り組む。 【全教職員】	90%の教職員の自己評価シートに「ICTの利活用」に関わる内容が授業や校務において盛り込まれ、効果的に実践されたか。	90%以上の教職員の自己評価シートに「ICTの利活用」に関わる内容が記入され、授業では、欠かせないツールになっている。	A	多くの教職員、ほとんどのクラスによるICTの利用がされている中、より子供たちの学びの力を向上させていきたい。
		一般学級・重複障害学級それぞれの教育課程の特徴を反映した授業実践	限られた教室数、狭隘な学習環境の中でも、各学部で重複障害学級の教育課程の特徴を反映した授業を工夫し、実践する。 【各学部】	重複障害学級の教育課程の特徴を反映した授業実践について、各学部が2つ以上の具体例を示すことができたか。	教室内の環境整備を行うことで、個々に応じたより効果的な重複障害学級の教育課程の授業実践を、どの学部においても行うことができた。	A	次年度は更に教室が手狭になる中、狭隘な学習環境が考えられるが、その中でも、個々に応じた重複障害学級の教育課程の実践が必要になってくる。
2	限られた教室数、狭隘な学習環境の中で、日々の児童生徒の安全をどう確保していくか、全校的な配慮・工夫・緊張感が必要である。 大規模災害時を想定し、引き続き、計画的な訓練を行うとともに、より実践的な登下校時の対応について検討を進める必要がある。 今までの研究と実践の成果を十分に全校で共有し、学部間連携を意識して、日々の指導や学習環境の整備にさらに反映させていく。	施設設備のより安心安全な整備及び限られた施設設備の有効活用と災害時・緊急時の実践的な対応訓練	施設設備を整え、さらなる児童生徒増も見据え、限られた施設設備をどのように有効活用していくか、災害時・緊急時の対応もより実践的な内容になるよう検討する。 【管理職、企画委、関係部】	冷暖房施設の大幅改修及び施設設備の適切な活用計画（教室配置等）が策定できたか。 大規模災害を想定した防災マニュアルの見直し及び実践的な緊急時対応ができたか。	7月末から1月上旬の長期にわたり、冷暖房施設の大幅改修を無事実施した。大規模災害を想定した実践的な引き渡し訓練の実施や防災マニュアルの見直しを行った。	B	次年度以降も大規模改修の可能性がある中、日常の教育活動と校舎の環境整備を両立して行っていく必要がある。教室数不足の対応策を学校レベル県レベルで引き続き検討していく必要がある。
		昨年度の環境整備の研究を一步進め、個別最適な学びを支える構造化について学部間連携のもと実施	昨年度からの研究をさらに深め、学部間で研究を行うことで、構造化において指導の系統性や指導の一貫性を持たせる。 【各学部、研究部】	各教室で、机・ロッカー等の配置の工夫、掲示物の精選やわかりやすい掲示、適切で効果的な視覚支援を学部間での系統性を持たせ、進めることができたか。	今年度は、学部間で連携して少人数のグループを作って、実践をもとに、構造化の事例紹介を行った。各学部間における、指導の系統性への意識の向上が図れた。	A	全体研究の実施方法を、学部間同士の小グループで実施したことで、活発な意見交換ができた。他学部の支援の様子をみることで、今後は、より系統性を持たせた指導を進めたい。
3	「社会に開かれた教育課程の実現」の観点から、コミュニティスクール（学校運営評議会）をうまく活用し、外部資源を利用して、効率的に情報発信や外部資源の活用を進めていく。 また、本校・分校の生徒会の活動・交流を促進する。 お互いにとって効率的に学校間交流を活性化させる必要がある。	コミュニティスクールの効率的な活用	コミュニティスクールの力を借りて、情報発信や外部資源の活用について、効率的に進める。 【管理職、企画委、その他】	コミュニティスクールと学校が連動して、効率的な情報発信および外部資源活用ができたか。	今年度も工業高校、地域団体、スポーツ選手等の外部資源を新たに活用することで、学校教育の充実を実践することができた。	A	コミュニティスクールを実践していくうえで、今後もできるだけ手間をかけずに、外部と連携して、資源を活用する方法を模索していく必要がある。
		さいたま西分校との交流促進 近隣小中学校との学校間交流促進	さいたま西分校との生徒会交流を進める。 【高等部】 指扇北小、指扇中との学校間交流を活性化させる。 【小中学部】	さいたま西分校との生徒会交流が2～3回できたか。 近隣小中学校との学校間交流が複数回実施できたか。	さいたま西分校との生徒会交流会を3回実施することができ、交流を深めた。 近隣の小中学校と直接交流し、お互いの理解を深めた。	B	さいたま西分校と本校との生徒会交流は今年度も実施できた。今後定着をさせていきたい。近隣の小中学校との交流は今後も直接交流を促進していきたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和7年2月 4日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>タブレット等のICT機器を使って、子供の理解が促進できる授業をこれからもお願いしたい。教室数不足の中、一般、重複の別を視野に入れた授業実践は素晴らしいことである。また、現在の学習指導要領になってから半ばを過ぎたが、今後は、今回学習指導要領の見直しを通して、「何ができて、何ができないのか。」という視点にたって、学校における教育課程の見直しも、ぜひ行ってほしい。</p>	
<p>児童生徒の過密化による教室不足、については、他校でも同様のケースがある。ぜひ、他校での実践例や工夫していることなどを、共有して、本校でも生かして行ってほしい。 緊急災害は、いつやってくるかわからない状況である。今年度のように、全校をあげての引き渡し訓練の実施は、望ましいことである。例年、実施時期が年度の後半であるので、ぜひもっと早い時期での実施を検討していった方が、より効果的なのではと考える。保護者の引き取り方法については、自家用車ではなく、緊急時の、実際の状況に即して取り組んでもらえるように、PTAとも協力しながら、取り組んでいくとよいと考える。</p>	